# 研究所だより

第４２８号
２０２１年　４月１２日
発行：土佐清水市教育研究所
ＴＥＬ　８２－３０１５

“ 春のうららの　隅田川　のぼりくだりの　船人が
櫂（かい）のしづくも　花と散る　ながめを何に　たとふべき ”
『　花　』　　唱歌　作曲：瀧　廉太郎　　1900（明治33）年

## ～春爛漫　2021（令和3）年度スタート～

うららかな春日和に恵まれた７日（水）、各校では2021（令和3）年度の始業式、入学式が執り行われたことと思います。久しぶりに子どもたちが登校してきた学校には、元気で、明るい声が響き渡っていることでしょう。

新年度を迎え、子どもも教師も夢や希望を持ち、やる気に満ちあふれていることでしょう。しかし、不安と期待が入り交じり、戸惑いもあろうかと思います。教師集団がしっかりと子どもたちを支え、楽しく、喜びのある集団づくり・授業づくりを実践して行くことを願っています。

**『　喜んで登校　満足して下校　』**

## ＜教育センターの紹介＞

教育センターでは、補導センター、教育研究所、適応指導教室、家庭児童相談室の４部署とＳＳＷ並びにアウトリーチ型ＳＣが横の繋がりを密にし、連携を保ちながら、児童・生徒を取り巻く教育環境の整備、教職員・保護者等の教育相談体制を確立し、様々な教育分野に対応し、可能な協力と支援をさせていただきます。

教育センター組織図

| 所長：谷崎　清 |
|---|
| 主管全般 |
| 所長補佐：上田　紀夫 |
| 主管全般補佐、庶務、予算等 |

| 補導センター<br>82－3501 | 教育研究所<br>82－3015 | 適応指導教室<br>82－3016 | 家庭児童相談室<br>82－0355 | ＳＳＷ<br>82－3016 |
|---|---|---|---|---|
| 奥谷　博史<br>（補導教員） | 勝間　康人<br>（主任研究員）<br>橋本　雅代<br>（研究員） | 泥谷　人美<br>（児童生徒相談員） | 岡部　千代<br>田村佳代子<br>（児童家庭相談員）<br>田村　雅宏<br>（児童虐待防止対策コーディネーター） | 杉本　順<br>浜岡　篤<br>（５月から勤務） |
| 補導活動<br>相談活動<br>環境浄化活動<br>広報活動<br>研修活動 | 教育内容・方法の調査研究<br>教職員の研修の助成<br>教育研究集会運営<br>教育活動の支援<br>あすなろネットワーク運営 | 不登校児童生徒支援<br>教育相談<br>適応指導教室（あすなろ教室）運営 | 児童家庭相談全般<br>（要保護児童対策地域協議会調整機関）<br>児童虐待防止対策 | 教育相談全般 |

＊アウトリーチ型スクールカウンセラー（訪問支援ＳＣ）：小松 宏暢
週２回（火曜日・水曜日）：訪問相談・支援等を行います。

## ＜着任挨拶～よろしくお願いします～＞

○谷崎　清さん（教育センター所長）

この度、人事異動により４月１日付で、教育センター所長として着任いたしました谷崎　清と申します。課長職は２年と少々経験も浅く、教育委員会は初めての職場です。皆さんの邪魔をせず職務に専念したいと思います。経験のない職場ですので何かとご迷惑をおかけしますが、お願いします。

○田村　佳代子さん（家庭児童相談室）

「子どもは地域の宝！！」
土佐清水市の子どもたちが健やかに育っていくように、支援・援助をしていきます。子どもの成長過程には、喜びやうれしさも多くあるなか、不安に感じることも多くあり悩むこともあるでしょう。ご家庭で子どもたちが安心した生活を送ることができるよう一緒に考えていきたいと思います。
よろしくお願いします。

## ☆家庭訪問で子どもの姿をつかむ　～最初の出会いを大切に～

家庭訪問は、「家庭での子どもの様子や保護者の教育要求を聞いて今後の教育に役立てるために行う。」という点をしっかりおさえておく必要があります。

最初の出会いですから、先ずは保護者の話を聞く（傾聴）ことです。話を受け止めることから良好な関係（パートナー）ができてきます。話の中で「それは…」「けれど…」と疑問を呈したり、否定的な言葉が出ると話は進みません。保護者の悩みに耳を傾け、共感的理解者になることから、共同の歩みが始まります。その点を配慮しながら家庭訪問に臨んではいかがでしょうか。

具体的におさえるポイントとして

○子どもの育っている教育環境から子どもの姿をつかむ
・災害、防災等の緊急時に対応するために、子どもの家の所在地を確認する。
・子どもの生活環境を知る。（地域の特性、通学路や危険箇所、家庭学習、遊び場、家事分担など）
・保護者の子どもについての考えなどを率直に聞く。（育児観、教育観）
・家庭における子どもの長所、短所を知る。（親の子ども観など）
・保護者と教師の情報交換、相互理解を図る。（子どもの病気、怪我、進路、友だち関係など、学校では話せないことなども話し合う場になる。）
・保護者と子、教師の信頼関係を築く。
・保護者からの学校や担任への期待や要望を聞き、収集する。

## 「出会いに全力を尽くし、魅力ある学級へ！」

☆楽しい学校・学級づくり

学校（学級）は、子どもたちにとって集団生活の基盤です。自分と心の通い合う仲間がいる。その事が学校生活を充実したものにします。一人ひとりがかけがえのない存在として尊重され、安心して生活する権利を持っていることに気づかせ、心の通い合う温かい人間関係を育てていくことが大切です。

そうした面で教師は、児童生徒の集団を教育していく宿命にあります。集団を活用できる素晴らしい仕事をしています。その集団づくりが教師の仕事の中心であり、集団づくりができるかどうかが仕事の成否も左右します。良い集団づくりをして、個々の児童生徒を良くして、更に集団が良くなって、個々の児童生徒が更に良くなる良好な環境をつくり出すことが大切です。

学校生活で、子どもたちが一番長く過ごすのが授業の時間です。この時間が満たされていること（わかり、できて、使えて、学び合える）が子どもたちの喜びとなります。教師の授業力向上とより良い集団づくりは車の両輪です。両輪がうまくかみ合えば互いに相乗効果を発揮していきます。子どもと共により良い集団づくり、授業づくりに取り組んでいきましょう。